

## 「ヨセフ、身を明かす」

2021年07月14日

ヨセフは兄弟に言った。「さあどうか近寄ってください。」彼らがそばに近づくと、ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。しかし今、私をここに売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神があなたがたより先にお遣わしになったのです。」(創世記 45 章 4 節～5 節)

ユダは、宰相ヨセフの前で、命がけの嘆願をした。父ヤコブは末の子ベニヤミンを愛し、彼がいなくなると、父は悲嘆のうちに死んでしまう。私は安全を請け負って、ベニヤミンを連れて来た。連れ戻さないと、私は生涯、父に対して罪を負う。ベニヤミンの代わりに、私を僕としてとどめ置き、ベニヤミンは兄弟と一緒に上らせてください、と。

ヨセフは、ユダの嘆願を聞いて、自分を制し切れなくなり、「皆をここから出してくれ」と叫んでエジプト人を追い払い、12人の兄弟たちだけになった。しかし、ヨセフは声を上げて泣いたので、エジプト人、ファラオの宮廷の者たちは、ヨセフの泣き声を聞いていた。ヨセフは兄弟に、「私はヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか」と、自分の身を証し、父の健在を問うた。兄弟は驚きのあまり、答えることができなかった。自分たちが憎み嫌って、奴隷として売ったヨセフが、エジプトのファラオに次ぐ宰相になっている。想像できない形で、ヨセフとの面会となった。ヨセフは、『さあどうか近寄ってください』彼らがそばに近づくと、ヨセフは言った。『私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。しかし今、私をここに売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神があなたがたより先にお遣わしになったのです』と言った。

ヨセフ物語は、「私をここに売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神があなたがたより先にお遣わしになったのです」という言葉を著わすために、書かれた物語と言っていい。神学用語では、これを「救済史」という。人間の歴史は、人間を救おうとする神の支配の中にあるという歴史観である。

ヨセフはエジプトで言葉も文化も違う中で、孤独な奴隷生活を強いられた。この時、エジプトに売られたことで、兄弟たちをどんなに恨んだであろうか。しかし、ヨセフには神が共におられた。また、誠実に生きて、人間的に大きな成長をした。ヨセフは夢解きの能力によって、エジプトの宰相にまでなった。ファラオの夢を解いて、豊作の7年間、食料を蓄え、飢饉に備えた。飢饉に襲われたカナン兄弟が食料を求めてやって来た。ヨセフは兄弟であることが分かっていたが、自分を奴隷として売ったことをどのように考えているか、末の弟ベニヤミンにどのように対しているかを、策略をもって試した。兄弟は策略に陥り、パニックになったが、ユダの嘆願を聞いて、ヨセフの怒りは赦しに変わった。あなたがたを救うために、神が私をエジプトに先に遣わされたと、神の救済史を告白した。だから、悔やむことも、責め合ったりすることはない、と。これを聞いた兄弟は驚愕し、言葉を失った。そして、苦難を赦しに替えるヨセフの神信仰に圧倒された。

ヨセフの信仰は、私たちにおいても真実である。私たちも故なき苦難に遭遇する。その時、神は不在なのかと嘆き、悲しむ。しかし、その嘆き、悲しみは神が備えた苦難で、そこから、救いに至る道が開かれてくる。その時、神の救いに与るための歩みであったことを知ることができる。人生に徒労はない。神はどんなマイナスも、プラスに替えてくださる。この喜びを体験しながら生きるのが私たちの信仰生活である。